

Frente vol.26

フレンテ フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

2006.7



業
告
事
報

フレンテみえの事業 続々開始！
映画上映と講演&シンポジウム
「もっと楽しく！パパの子育て」

エッセイ

西田小夜子さん『六十からが面白い』に続くエッセイ第2弾

さて、問題です。

ここは何という国？

答えは、P.1で探してみてください。

男性相談も始まりました！

市町からこんにちは

名張市

スポーツとどんな関係があるの？

Focus

スポーツと男女共同参画

北欧の
男女共同参画の先進国

もっと楽しく!パパの子育て

スウェーデンに学ぶ

スウェーデンは、社会福祉の先進国・男女共同参画の先進国と言われています。女性も男性も仕事を持ち、男性の育児休業取得率は80%近く、子育てにも夫婦ともに関わりを持っている国です。

フレンテみえでは、4月28日(金)、29日(土・祝)の2日間、「もっと楽しく!パパの子育て」をテーマに、スウェーデンから監督をお招きし、監督舞台挨拶&映画「ダブルシフト-パパの子育て奮闘記」上映、監督講演&シンポジウムを開催しました。また、三重県子育て情報交流センターとの共催で交流会や、フレンテみえオリジナルパネル展「スウェーデン式 仕事と子育ての両立」も開催しました。

監督の講演やシンポジウムの様子を抜粋して紹介します。

男女ともに 仕事と家庭の両立を目指す国

エッセーンさん：作品を上映した日本、インド、アメリカでは、上映後、子育てにおける父親の役割について議論が起きました。監督としては、このフィルムがいろいろな国で違う捉え方、リアクションにあうというのは嬉しいことです。

スウェーデンでは一定の出生率を保ちながら、女性が労働参加をしているのですが、主に2つの理由があります。

ひとつは手厚い両親保険(育児休業中の給与保障)ということ、もうひとつは児童擁護といった学童保育などがあることで、女性たちはこういった制度に支えられています。

マリア・エッセーンさん

ストックホルム大学で映画を学ぶ。テレビの仕事を経て1993年コロムビア大学に入学のため渡米。在籍中に製作した短編2作品は数多くの国際映画祭で上映され賞賛を受ける。卒業後、映画以外にもNYとストックホルムでコマーシャルなども手掛け、長編デビューとなったこの作品にもキャリアを生かしている。1968年、スウェーデン生まれ。

スウェーデンから
マリア・エッセーン監督
来目!

movie



タクシードライバーのヨナスとお天気キャスターのエマに子どもが生まれました。8ヶ月間仕事を休んで子育てをしていた妻エマは、「明日からあなたが育児をしてね」とヨナスに宣言して仕事に戻ってしまった。しかし、小さな会社で働くヨナスは、育児休暇を言い出すことができない。ダブルシフトな毎日がヨナスを追い詰めていく……!

出生率というのは、子どもを持つということと、働くということが両立している国により高くなるという傾向があるようです。ですから、政府は子どもがいる家庭への支援というのを非常に手厚くしているわけです。

スウェーデンの家族政策は、とりわけ1960年くらいからの広範な社会変化によってつくられたものです。

そのうちの重要な変化のひとつとして、労働力として、男女が家から出て働き始めた人が増えて、男女共同参画という動きにつながり、今日、男女も家事育児について、前よりも一層責任分担ということをするようになっていきます。

スウェーデンの最終的な家族政策の最終目標は、男女ともに仕事と子育てを両立できるということです。家族政策によって、より平等な社会づくりが促進されなければならないということなのです。



スウェーデンの育児休業制度

1974年、スウェーデンでは世界初の両性が取得できる育児休業が導入されました。これは、経済危機に直面した税制改革の成果であるともいえます。かつて、スウェーデンも専業主婦が多い国でしたが、働く女性が増えたのは、この育児休業制度が整ったことも大きな要因のひとつです。子どもを産むことが決まったら休みが保障され、賃金も80%もらえます(両親保険)。社会全体で子どもにかかる費用を支えるしくみができているといえます。

◆スウェーデンの育児休業取得率

女性 民間 84.0%、公的89.3%

男性 民間 79.2%、公的75.7%

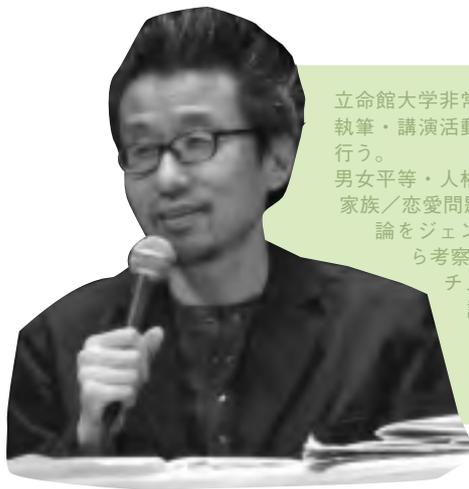
(出典:内閣府経済社会総合研究所「スウェーデン企業におけるワークライフバランス調査」)

また、育児休業取得日数が480日と長いのも特徴です。

社会全体で次の世代を担う

伊田さん：僕は大学の教員なんかもしていますが、結婚もしていないし、子どももいません。子どもは好きだけど、産まなかったとか作らなかったわけで、これから持つ、というのは養子も含めてあるかもしれませんが、僕は持たない人生もありだと思えます。もし、持つなら育児休業も含めて子育てをしないとあかん。

僕は、社会全体で次の世代を担ったらよいという考えなんです。たくさん税金を払って、みんなで子育てや介護をしていく。そういう意味では独身であったり、子どもがいない人も関わりたいと思うし、逆に産んだ人もキャリアを我慢せずにしたいことをやっていくと、そんな社会になったらいいなと思って、ジェンダー論、男女平等論をやってるんです。そういう意味では、北欧から学ぶことはいっぱいあると思えます。



伊田広行さん

立命館大学非常勤講師。日本女性学会幹事。執筆・講演活動、さまざまな市民運動なども行う。男女平等・人権問題・社会政策・労働問題・家族／恋愛問題、平和問題、人生（生き方）論をジェンダーとシングル単位の視点から考察している。近年は、〈スピリチュアリティ〉を組み込んだ人権論／人生論の確立やスピリチュアルケア論の研究、自殺防止センターでの電話相談ボランティアなどに取り組んでいる。

育児休業を取ってみたら家事もついていた！

山本さん：私は2ヶ月間、育児休業を取りました。取ってみてどうだったかということですが、子どものご飯作って、オシメを替えて…こんな毎日が続くわけです。いざ休みを取ってみて改めて気づいたのは、育児休業は育児だけじゃないということなんです。

で、何があったかという家事があったんですね。当たり前なことだと笑われるかもしれませんが、これがかなり負担に感じました。その日しないとかんことを自分なりに考えて洗濯したり掃除したり、天気のいい日は布団も干さなあかん、あるいは雨が降りそうやから洗濯物は早く取りこまなあかんとか、そういうのが全然意識から抜けていて、育児休業というのは家事もしないとかんのかなということでした。

山本さん：この子の命を、たった2ヶ月だったけれど自分に任され、なんとか無事乗り越えた。そういう安心感みたいなものが正直ありますね。



山本智佳央さん

三重県職員。現在は三重県児童相談センター北勢児童相談所に勤務。県庁健康福祉部に勤務していた平成14年4月から2ヶ月間、育児休業を取得。この時、「育児休業の楽しさ」と同時に「家事との両立の大変さ」・「育児の孤独さ」も身を持って体験する。2度目の育児休業にチャレンジするかどうか悩んでいる最中。（H18年4月1日現在）

山本さん：子育て中は、被害者意識が強くなるというか、自分ばかりが子育てや家のことをしているという感じになるんです。私が休みを取って子育てに専念しているわけですが、実は妻のほうが仕事から帰ってきて、子どもの面倒をたくさん見ています。もちろん、家事もです。しかし、なぜか私ばかりがさせられているような感覚になるんですね。それで、ついつい「俺にばかり言うな」などと言ってしまったりするわけです。なるほど、世の中のお母さん方はこんな心持になるんやなとすごく感じて、お母さんを責めるのはよくないな、かえってマイナスやなということが本当に実感できました。

男性の子育て参加がないと成り立たない選択肢

坂倉さん：映画を観て、子育ての大変さを思い出しました。子どもが病気になった時、夫は「自分は休めない」と言うし、私も休めない。でも「母親がみるのが当然だ」と言われて、いつも私が休んでいたなというのを思い出しました。私が子育てをした頃から40年近く経ち、育児休業制度も整ったのですが、まだまだ特に男性にとっては取りにくい。

私はどっちかという育児休業なんて取らないで働き続けたいと思う方で、男女ともに働き続けられるような条件整備をしてほしいと思っています。スウェーデンの育休の取り方は100通りもあると聞いたことがあります。100通りもあるならば、そのひとつの選択をするというのもありかなと思いました。



坂倉加代子さん

NPO法人「四日市こどものまち」理事、NPO法人「四日市男女共同参画研究所」代表。愛知県立女子大学卒業後、四日市市役所へ。青少年課課長、女性課課長、教育次長などを歴任。2000年退職。三重大学客員教授も務めた。フレンテみえホームページ「参画ゼミ」で「地域における子育て支援」について執筆。

ワーク・ライフ・バランスの実現には 社会のシステムの変革が必須

坂倉さん：一人ひとりの「ワーク・ライフ・バランス」を実現しようと思うと、これは社会的なことだと思います。バランスをとるために、例えば労働時間を短くしなければいけない。男女の賃金格差や税制も問題になる。スウェーデンは税金を個人単位で掛けたことで、「ワーク・ライフ・バランス」が進んだということですね。保育園や学童保育所の整備なども必要ですし、「ワーク・ライフ・バランス」は、構造的な社会のシステム変革がなければ実現しないテーマだと思いますし、男女共同参画社会には必須条件だと思います。

スウェーデンのように 自立した個人としてバランスをとる

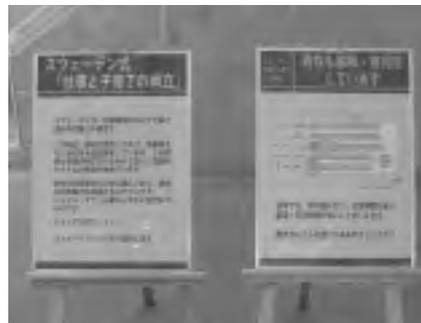
伊田さん：今日のテーマの「ワーク・ライフ・バランス」というのは仕事と生活のバランスのことです。具体的には、仕事以外の時間として、自分のための時間、親しい人、家族、友達との時間とか社会地域をよくするための時間とか、自分個人を単位とするということなんです。

北欧と日本と何が違うか。日本の家族の場合は、家のことも仕事をするのも2人でひとつ。どちらかが仕事ばかり家事ばかり、ということになってしまいがちで、これだと個人のバランスはあまりよくない。北欧は個人として自分で決めるというかなり自立した自己決定意識が強く、そういう中では仕事もしたい、子どもも持ちたいという「ワーク・ライフ・バランス」のバランスが個人単位であるわけです。

→三重県子育て情報交流センター共催の交流会の様子



→「スウェーデン式 仕事と子育ての両立」パネル展の様子



→監督舞台挨拶の様子



講演後のインタビューから・・・



◎ 日本は先進的だが考え方は親世代と同じ

来日は2度目です。日本は進んだ国という印象が強かったんですが、滞在するにつれちょっと違うなと思い始めました。しきたりとか慣習などということが固持されている。古さと先進的な部分の2面性があると思います。そこが日本の面白いところでもあると思いますけどね。

30歳代の若い男性が「日本の女性は男性より子育てが向いている」と言うのを聞きました。若い人がそんなことを言っているのが心配ですね。それは、ちょうど私たちの親世代の頃に言われていたことです。スウェーデンでは、教育が功をなしてか、若い世代は両親世代の考え方とは違ってきています。

◎ スウェーデンも取組真っ只中

男女共同参画社会推進のために、スウェーデンは30年にもわたって様々な取組をしてきました。その結果、女性議員割合は高く、育児休業制度など、仕事と子育てを両立するためのシステムは充実してきています。

しかし、まだ50：50ではないですし、民間の大企業の役員クラスの女性が占める割合は低いのが現状です。

1974年頃のフェミニズムを扱った演劇と同じものが今でも上演されていますが、内容は現代社会でも決して古くない。男女共同参画の歩みはそれほどスローなのです。

映画の世界でも、女性監督がまだ少ないという現状があります。その状況を変革しようとして、女性監督作品を40%にまで増やそうとする動きがあるなど、いろいろな方面での取組が進められようとしています。

日本も時間はかかるかもしれませんが、努力を積み重ねていくことが大切なのではないでしょうか。

参加者の感想から・・・

- ☆夫婦で育児休暇を取るとよいと思いました。
- ☆父親の育児参加はやはり企業や社会の問題が大きいです。フレンデミーでのこのような取組を続けてほしいです。
- ☆仕事と子育てで大変さばかりが先に立っていたけど、今自分がしていることの楽しさ、大切さを感じました。

団塊世代の「大量定年時代」を焦点に、フレンテみえでは平成18年5月28日、作家 西田小夜子さん講演会「60からがおもしろい～夫婦のための定年塾～」を開催しました。第1回「六十からが面白い」に続くエッセイ第2弾です。

「定年塾」というものを思いついたのは7年前のことだ。退職後をどう過ごすか悩んでいる夫婦と話している時に、ひらめいたことを短編小説に書いたのである。私が考えた「定年塾」は、会社と家を往復するだけで40年生きてきた男性たちを、ごくふつうの家庭人、社会人に育てる学校みたいなものだった。

きのうまで企業戦士だった夫の浮世離れた言動に、妻たちがびっくりしたことが「定年塾」の始まりといえる。塾といっても、勉強なんかはやらない。偉い人のりっぱな話を、居眠りしながら聞くこともしない。そんなもんいりませんと、参加者に断られたのだ。

男性たちは現役中にセミナーや講座をいろいろ受けてきた。定年後は違うものがいいと言う。希望を聞くと「定年塾」の名前は気に入ったらしいのだ。中には「人生塾にしてくれ」と、額にシワ寄せてゴネる人もいた。人生塾！なにわ節だよ人生は、という感じがする。こめかみの血管に力が入ってしまいそうではないか。

定年後はゆったり脱力して暮らしたい。その上で何かしら努力することも大切だ。死ぬまで20年も30年もあるのだから。

いま定年にさしかかった人たちのほとんどが、15か18で社会に出ている。大学に進学できたのはわずかだ。親の経済力で、子の将来が決められた時代に育ったのである。

私は男性たちが長い間、自分の言葉でしゃべることなく来たことがわかった。それじゃ定年塾で思いっきり声を出しましょうか、と提案すると、みんな大喜びだ。お寺で座禅をしたり、ソバ打ちや木工も体験することにした。

東京は六本木ヒルズなどの高層ビル群ばかりで作られているわけではない。熊が出没する深山幽谷も、また東京である。「定年塾」は不便が「売り」だ。バスが

2時間に1本しか走らない場所でもやる。乗り遅れた人は高いタクシー代を払うことになるが、時間を守り人まかせは禁物というのに慣れてもらう。

やっとのことでたどり着いたお寺は、山に囲まれひっそりとたたずんでいる。お寺独特のにおいを懐かしむ人もいた。お坊さんは、私の好みですっきりと姿のよい、50前後の人だ。質素な藍染めの衣のすそからのぞく、白い素足が美しい。全員で般若心経を唱和し座禅していると、鳥の音がする。大木を渡る風と葉ずれの音も聞こえる。

お坊さんのわかりやすい説教や、私の落語じみた短い話が終わって昼ごはん。30人の参加者は女性が半数、男性が5、6人であとは夫婦である。昼食はお寺の台所で手作りしたり、おいしいお弁当を取り寄せる。

午後になると全員を5組くらいのグループに分ける。夫婦も離ればなれだ。悪口を言っても聞こえない。2時間をひたすら、話したり聞くだけで過ごすのである。それでおしまい。お金もうけが目的ではないから、費用も1日三千元だ。人に話し、他人の言葉に耳を傾けているうち、心の中が整理されてくる。

というわけで、私の「定年塾」は特別のことをしない。私は「精神のアロマセラピー」と呼んで、自画自賛している。年齢性別、勤め人自営業も問わない「定年塾」を、日本中に広げるのが私の夢だ。

『私の定年塾』

執筆者紹介



西田 小夜子さん

作家・画家・定年塾代表。妻から見た定年夫の生態を新聞に連載し、「みのむし男」などの造語で話題となる。快適な老後を目標に定年塾を作り、主宰。全国各地で講演し、テレビ、ラジオでも活躍。中日新聞にコラム連載中など執筆多数。近日台湾でも著書を出版予定。

名張市の男女共同参画推進状況は？

市条例の中で定めた男女共同参画について考える日（毎月22日）に合わせ、本年6月には、子ども用と大人用にそれぞれ作成した条例周知用パンフレットを、市内全小中生に配布し、学校では教材としても使用されています。また、男女共同参画推進ネットワーク会議との街頭啓発や、職員手作りの啓発パネルを庁舎内に展示するなど、男女共同参画を考えるきっかけづくりをしています。パネルは、市民活動団体等への貸出もしています。

今後の展望

平成18年度中に基本計画を策定し、その後、計画に沿って、市民への意識啓発など、積極的な事業の展開を図りたいと考えています。本年度について一例を挙げると、「男の寄り合い」として、団塊の世代の男性が定年退職後、地域や家庭に戻ってきたときに、適応できるような講座の開催を実施していきたいと考えています。

PR

今年は市民が身近な所で気軽に相談できるよう、相談事業の充実に取り組み、条例施行の4月から、第三者的な立場の男女共同参画専門員を設置し、性別による差別などの相談・苦情処理制度をはじめました。また、「電話による男性の悩みと生き方相談」「女性弁護士による法律相談」も開始しました。

来年1月に予定している「男女共同参画推進フォーラム」は、テレビでおなじみの三瀬顕弁護士を講師に迎え、講演は行政が、シンポジウムは市内ネットワーク会議登録団体が名張市独自の市民公益活動実践事業を活用しコラボレート事業として実施する予定です。



▲今年の男女共同参画週間（6月23～29日）にあわせて市庁舎内でパネル展示をしました。

Focus



第1回

男女共同参画はあらゆる分野での取組が必要です。スポーツの分野も例外ではありません。このコーナーでは、全2回にわたってスポーツと男女共同参画について取り上げたいと思います。

スポーツと男女共同参画

スポーツと言えば、女子マラソンの野口みずき選手や女子レスリングの吉田沙保里選手など、三重県出身の女性のスポーツ選手も世界で活躍しています。また、今年11月17日（金）～18日（土）には、サンアリーナ（伊勢市）において「2006年第6回新体操ワールドカップファイナル三重大会」が開催されます。

ここでは、去る5月11日（木）～14日（日）に熊本県で開催された「2006世界女性スポーツ会議くまもと」についてご紹介します。

この会議には世界74箇所の国と地域から約700名もの参加者が集まりました。熊本会議でのテーマは「変化への参加」。このテーマには、男女共同参画という変化の波に、誰もが積極的に関わって（参加して）ほしいというメッセージが込められています。世界女性スポーツ会議の目的はスポーツ界だけにとどまらず、あらゆる分野で男女共同参画を推進することです。国際連合の女性地位向上部長のカロリン・ハナンさんにより、「男女の固定的な役割分担を超えて」と題して開幕基調講演が行われました。

日本では、オリンピック等の競技スポーツ分野での女性の参加・活躍には、めざましいものがあります。また、趣味や健康づくりのためにスポーツを楽しむ女性も年々増えています。

その一方で、選手引退後の指導者や競技役員（リーダー的立場）としての活躍の場は、現在でも十分に整備されているとは言えません。これは、世界各国に共通する課題です。また、特に発展途上国では、経済状況や文化、宗教の違いなどから、女性が自由にスポーツを行うことができない国が数多くあります。このようなことも会議の議題になりました。

（参考・抜粋「2006世界女性スポーツ会議くまもと」HPより）



11月10日（金）、11日（土）にフレンテみえで開催される「男女共同参画フォーラム～みえの男女2006～」では、「スポーツと男女共同参画」についてのプログラムを予定しています。フォーラムの詳細は後日お知らせします。

レビュー

5.10-6.7

赤澤ヒロ子さん(ウイメンズカウンセリング名古屋YWCA ウイメンズカウンセラー)の指導のもと、講義やワークを通して受講生が自分を大切に、自分を信頼する力を育てるトレーニングに取り組みました。修了後には、受講生から「自分を少し好きになれました」「自分の思いを大事にしてよいことが分かりました」などの感想をいただきました。

5.13-6.24

自己主張トレーニング

加藤伊都子さん(フェミニストカウンセリング フェミニストカウンセラー)を講師に迎え、ロールプレイなどの実践的な演習を通して自分も相手も尊重できる気持ちの伝え方を練習しました。対人関係での自分の表現パターンや主張しにくい理由を探りながらの話し合いが大変好評でした。

5.28

男性講座一般コース

講演会「60からがおもしろい」

～夫婦のための定年塾～

中日新聞のコラム「夫婦のための定年塾」でお馴染みの西田小夜子さんを講師にお迎えし、2007年の大量定年時代を焦点に、定年後の夫婦関係についてお話をお聞きました。75名の参加者のなかには、夫婦でご参加いただいた方も多く、西田先生の定年後の実体験をもとに、夫婦でたくさん話し合い、お互いに自立することの大切さを、ユーモアたっぷりにお話いただきました。



西田小夜子さんのエッセイがP.4に掲載されていますのでご覧ください。第1回のエッセイは、フレンテみえホームページ上、情報誌のバックナンバーvol.25でご覧いただけます。

男女共同参画強調月間 ff

フレンテみえでは6月を「ff(フォルティッシモ)」と名付け、様々な行事を行いました。

6.2-3

フレンテまつり

登録団体の企画・運営により、フリーマーケットや活動展示、舞台発表、ミニ講習などが行われ、来場者・スタッフを含め、2日間で約800名の方で賑わいました。また『女性と仕事の未来館がやって来る!』パネル展や、ファイナンシャルプランナーによる無料相談も行われました。



渥美雅子さん講演会

フレンテまつりの2日目、『女性と仕事の未来館』館長で、弁護士としても活躍されている渥美雅子さんをお迎えし、「女(ひと)と男(ひと)の心地良いハーモニープラン」をテーマに弁護士ならではの切り口でお話いただきました。また、「山之内家の夫と妻」の講演も行われました。



6.7

共催事業「男女雇用機会均等セミナー」

三重労働局、三重県、(財)21世紀職業財団 三重事務所と共催で開催しました。実質的な男女の均等な取扱いを実現するために企業が行うポジティブ・アクションについてお話いただきました。三重労働局のパネル展示もあわせて行いました。

6.16,6.30,7.14

共催事業「再チャレンジセミナー」

(財)21世紀職業財団 三重事務所との共催で開催しました。

2日目の6月30日は阿部正浩さん(獨協大学経済学部助教授)の講演「自分らしく働く」を公開講座で行いました。再就職について事例とデータ分析を通してのお話、自分にとって働くことの意義とワーク・ライフ・バランスの実現について何が必要なのかを考えました。

6.24

男性講座専門コース「イベントを創ろう」

「日本家族再生センター」所長、「メンズサポートルーム」共同代表の味沢道明さんを講師に迎え、講座がスタートしました。皆が生き生きと暮らせるまちづくりのためのイベント企画に必要な視点について、ワークショップで学習しました。

7.1

男性講座一般コース

「お父さんと一緒に腕まくり」

スーパー主婦の山田亮さん(京都創成大学非常勤講師)を講師に迎えた講座に父親と子ども19人が参加しました。親子で調理実習を行ない、その後、父親と子どもに分かれたワークショップを実施しました。ワークショップでは、子どもは衣食住に関して学習を行い、父親は講師のユーモアあふれたお話を交えながら、仕事と生活について意見交換を行いました。

プレビュー

9.2

平成18年度

「三重の女性史を作ろう」公開講座

～近現代の女性と政治～

講師に三重大学人文学部教授の岩本美砂子先生をお招きし、三重県の女性史作成のための学習会を公開で行います。

場 所:フレンテみえ 3階 セミナー室C
定 員:50名程度(先着)
参加費:無料
申 込:フレンテみえ(059-233-1130)まで

フレンテみえの正面にある青い色をしたふくよかな女性像をご存知ですか？

この像は、フランス生まれでアメリカで育ったニキ・ド・サンファルという女性の作家の作品です。ニキの女神「ナナ」シリーズのひとつで、「La Grande Temperance」、和名では「中庸」という作品です。喜びに満ち溢れた自由奔放なポーズ。壺から壺へと移し替えられる真紅の水は生命を表しています。

「ニキは、男性芸術家たちが描き続けてきた女性の理想像から、女性たちを解放するかのよう、豊満で不完全な形態の女性像ナナを制作した。自由で巨大で自立したナナたちによって、社会の中で制度化された女性像から自らを解放して以来、ニキの女性像は自伝的要素が薄まり、女性そのものの形象化へと向かい、太古の地母神のような姿ですべてを包み込んでくれる原始の母のイメージになった。」

(抜粋：「ニキ・ド・サンファル展2006」図録)

女性解放などをめざす多くの作品の先駆的な表現者であるニキの作品を観に来ませんか？



◆若桑みどりさん講演会
「西洋美術史にみる女性像」
9月16日(土) 13:30~(要申込)
会場：フレンテみえ多目的ホール

◆名古屋市美術館特別展
ニキ・ド・サンファル展
~8月15日(火)まで

Book & Video

フレンテみえで開催する若桑みどりさん講演会では美術の分野における男女共同参画についてお話いただけます。

情報コーナーで紹介しています。



ビデオ 『体験!発信! チャレンジ・ストーリー』
~まちづくりにかける元気な女性たち~ (ダイジェスト版)

企画：内閣府男女共同参画局
制作：(株)テレパック
上映時間：39分
制作年：2006年

女性が中心となったまちづくりを推進する3つの地域の取組をドキュメンタリーで紹介。男女共同参画のまちづくり、地域おこしを考える方には必見のビデオです。



図書 『ワークライフバランス社会へ 個人の主役の働き方』

著者：大沢真知子
出版社：岩波書店
発行：2006年3月

展望のないフリーターや派遣社員の増加、正社員への過重な労働…。組織人間という組織中心の会社や社会ではなく、働くことや生きることの意味を問い直し、働く人間=個人が中心となったワークライフバランス社会を提案。

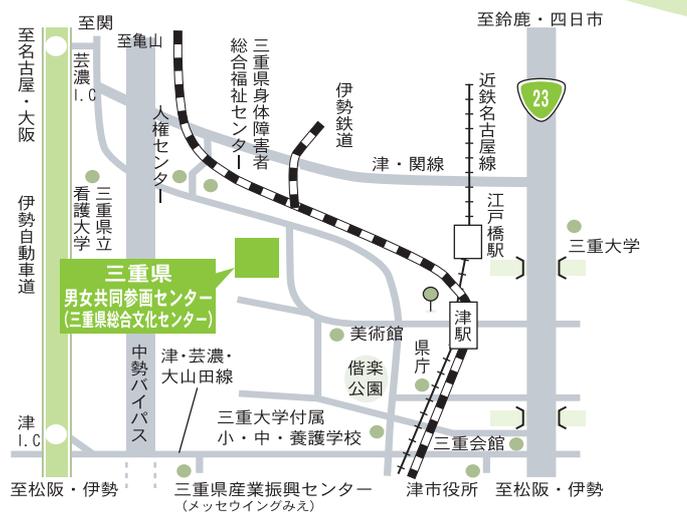


図書 『象徴としての女性像』ジェンダー史から見た家長制社会における女性表象

著者：若桑みどり
出版社：筑摩書房
発行：2000年5月

美術の中で女性たちがどのようにとらえられ、表象されてきたか。その波瀾万丈な変遷を丹念にたどる新しい美術史。

三重県男女共同参画センター までのご案内



休館日 毎週月曜日
年末年始 (12月29日から1月3日まで)
交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約35分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

三重県総合文化センター 三重県男女共同参画センター フレンテみえ

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL: 059-233-1130 FAX: 059-233-1135
URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/woman/>
E-mail: frente@center-mie.or.jp

8月6日(日) フレンテみえからのお知らせ

祭! ウォークラリー 「やっほ~! フレンテ宝島」



毎年大好評のウォークラリー「やっほ~! フレンテ宝島」。こどもたちが楽しく男女共同参画を学び体験するウォークラリーです。今年は、「いろいろな自分を見つけよう!」をテーマに開催します。

動物がいっぱいの島で宝物探しに挑戦しませんか?
乞うご期待!
10:00~フレンテみえエントランスで受付開始!

【お詫び】
vol.25「平成18年度フレンテみえ事業案内」の6/16~と11/10~の「再チャレンジセミナー」の会場と申込・問い合わせの電話番号に誤りがありました。正しくは「会場：フレンテみえ セミナー室C」[申込・問い合わせ：(財)21世紀職業財団 三重事務所 (tel: 059-228-2300)]でした。お詫びして訂正いたします。